No.	施策	広報と地域防災の向上	現状	・学校や自治会などを対象に下水道の役割や災害対策等についての講座を実施 ・普段あまり目にしない下水道事業に対する理解を得るための広報活動が必要 ・激甚化・頻発化している大雨に対し、市民の生命や財産を守るための避難行
1	取組項目	出前講座	課題	動につながる情報を、より多くの市民にわかりやすく伝えることが必要

・下水道事業への理解を得る

• 浸水に対するソフト面の対策を強化



	令和7年度以降	令和6年度			①評価:C ②評価:A
P (計画)	①出前講座の実施 ②副教本の配布	①出前講座の実施 ②副教本の配布	D do (実施)	令和6年度	学校等から依頼が 学校等から依頼が あった場合は、講座 を検討し実施する。 副教本の配布は例年 通り実施した。



action

(改善)

依頼に応じて適切な形式で実施できるような講 座を検討する。



進捗評価

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	広報と地域防災の向上	現状	・ポンプ場等は普段目にすることが少なく、どのような役割を担っているか周知しきれていない部分がある
2	取組項目	ポンプ場の見学等	課題	・現在の職員数では年間1回程度の受け入れ回数が限度だ と考えている

下水道の目的や仕組みなど、下水道を「見える化」し、関心を得る 目標



Р	令和7年度以降 ①見学会の実施	令和6年度 ①見学会の実施			①評価 : D 社会見学等の申し込 み等がなかった。
Plan (計画)			do (実施)	令和6年度	

社会見学等については、今後も可能な限り受け

自主的に開催することの二点を検討する。



D

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	広報と地域防災の向上	現状	出水期や台風シーズン前に、各媒体を通じた広報、啓発を行っている
3	取組項目	幅広い広報媒体の活用		多くの人に見てもらう、興味を持ってもらえるような工夫 が必要

最終 ・下水道事業への理解を得る

目標 ・浸水に対するソフト面の対策を強化



		令和7年度以降 ①YouTubeの活用 ②市民認知度の向上			D do (実施)		①評価:A ②評価:A 各媒体を通じた広報 及び啓発活動を実施 した。
--	--	-------------------------------------	--	--	-----------------	--	---



A

(改善)

今後も下水道施設の紹介動画を積極的に配信する。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	広報と地域防災の向上		計画課で出前講座や、マンホールカード、HP、YouTubeなど様々な広報 媒体によって下水道事業のPRを行っているが、これらのPRによって下水 道事業に親しみや興味を持っていただいた方が、より下水道事業について
4	取組項目	下水道事業の説明(PR)	B/()C	知る仕組みが無い 下水道事業をハード面だけで維持していくことが困難な状況になっている 中で、いかにソフト面の強化を行っていけるかが課題となっている

下水道事業の役割や実績に対する市民の理解を得て、ソフト面の強化に繋げる 目標



	令和7年度以降	令和6年度			①評価:B
P Plan (計画)		①HPの活用 ②SNS等の活用 ③広報媒体の連携	D do (実施)	令和6年度	②評価:C ③評価:C HP及びSNSを活用して、 下水道に関する情報発 信を行った。





進捗評価

D

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	1691 75	来庁せずに必要な情報・資 料を得られる	 現状	入札・契約関連の情報は全ての人が平等に得られる透明性 を確保する必要があるため、正しい情報をタイムラグなく
5	取組項目	透明性のある情報公開(入札)	課題	見やすい形でホームページで公表しなければならない

最終 入札・契約情報を適切に公開することにより、契約の透明性を確保 目標



 中 Plan (計画)
 令和7年度以降
 令和6年度

 D (対面)
 ①必要な情報を即座 (こ公開)
 ②分かりやすく掲載
 ②分かりやすく掲載

令和6年度

②評価: A
入札、契約関連の最新データをホームページで即座に公開し、ジャンル分けを統一することで、分かりやすく掲載した。



A action (改善) 引き続き、入札、契約情報を即座に見やすい形で公開することにより、契約の透明性を確保する。



Check (評価) 令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

①評価:A

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	16th 11 5	来庁せずに必要な情報・資料を得られる	現状	ある程度の申請手続きに関する情報はHPに掲載されているが、全てが掲載されているわけではない
6	取組項目	申請書類の掲載		申請手続する上で必要な資料を窓口に限定するのでなく、 HPにも掲載して選択肢を広げる必要がある

最終 全ての申請手続き等に関する資料をHPに掲載 目標



	令和7年度以降	令和6年度		①評価:B 申請書類を新たにHP
P Plan (計画)	①申請書類のHP公 開	①申請書類のHP公 開	D do (実施)	に公開した。

A

他の申請書類や必要な参考資料についてもHPへ の掲載を検討する。



令和6年度 進捗評価

В

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	16 11 1 = 15	来庁せずに必要な情報・資 料を得られる	1 1H/T	下水道台帳をHPにアップするためには基盤図の更新と雨水施設のデジタルデータを作成する必要がある 基盤図の更新のためには関係部署と協議が必要となり、雨水デジタ
7	取組項目	下水道施設の情報公開	課題	ルデータの作成は相応の費用と期間が必要

最終 市役所へ来庁しなくてもWeb上で下水道台帳を入手できる 目標



	令和7年度以降	令和6年度			①評価:A
P Plai (計画		①関係機関協議 ②雨水データ作成 ③WEB公開	D do (実施)	令和6年度	②評価:A ③評価:D 雨水デジタルデータ 作成が完了した。



WEB公開に向けての準備を進める。



令和6年度 進捗評価

В

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	施策	デジタル化の推進		現状					
8	取組項目	紙文書の削減		課題					
最終 データの取りまとめやアウトプットを効率的にする									
①評価:B									
	令	和7年度以降	f	う和6年	度		D do (実施)	令和6年度	会議におけるモニ ターの活用など、紙 文書の削減を実施し た。
P Plan (計画	1	資料削減状況	①紙資	料削減	狀況				
A action action (7) さらなる紙文書の削減に取り組む。				5 .			Check (評価)	令和6年度 進捗評価 B	A:目標達成 B:目標をある程度達成 C:目標を下回る D:目標を大きく下回る

No.	施策	デジタル化の推進	現状	・排水計画確認申請書台帳システム及び下水道施設台帳システムの導入済で、排水計画確認申請書等のデータ管理を行っているが旧データの精査が残っている・路線選定や設計中及び施工中の路線はアナログで管理しているが、GISでデータ
9	取組項目	データ管理システムの導 入・改善	課題	管理することにより、事務の効率化を図る ・企業会計システム、積算システムは良好に運用

終 ・システムによりデータの管理を行い、事務の効率化や市民等への対応も迅速化

目標・システム運用に係る作業量や費用を更に減らす



 P (計画)
 令和7年度以降
 令和6年度

 ① 手書き申請の削減 ②キーボード入力の削減 ②キーボード入力の削減
 ②キーボード入力の削減
 令和6年度



A

(改善)

引続き手書き書類のデータ管理への移行を検討 実施する。



令和6年度 進捗評価

D

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	デジタル化の推進	現状	ポンプ場運転維持管理業務委託の契約業者とは、施設に関する情報共有については綿密に行う必要がある
10	取組項目	施設管理システムの導入・ 改善		マンホールポンプ場については、故障が発生すると、市民生活への影響が大きいため、迅速な対応が求められる

施設の効率的な管理とトラブルに対する迅速な対応を行う 目標



	令和7年度以降	令和6年度
P Plan (計画)	①ポンプ場の運転管理②マンホールポンプの運転管理③下水道情報管理システム	理



①評価:A ②評価:A ③評価:A

必要なシステムにつ 令和6年度

いては、導入済。



action

(改善)

必要なシステムについては、導入済。 より効率的な維持管理のため、蓄積する維持管 理情報の内容を精査・検討する。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	デジタル化の推進	現状課題	資料の作成は企業会計システムから複数の帳票から引用、加工する必要があるため煩雑で時間がかかり、同じような資料も多い 作成資料に合わせて全てシステム改修で対応すると、費用が掛かり
11	取組項目	システム導入以外の取組		すぎるため、エクセルマクロやアクセスを利用することで、早く正確に資料を作成する

最終 決算作業の効率化 目標



令和7年度以降 令和6年度 ①企業会計システムか ①企業会計システムか らの出力データの整理 らの出力データの整理 ②企業会計システムが ②企業会計システムが Plan (計画) 取り扱わないデータの 取り扱わないデータの 整理 整理 ③下水道各課の入力 ③下水道各課の入力 フォーマットの改善 フォーマットの改善



①評価:A ②評価:A ③評価:A

システムから出力されている 令和6年度 データは整理されており、シ ステム外のデータはACCESS やVBAの活用により効率化さ れている。



A

(改善)

引き続きシステム外のデータ管理の効率化を進 める。



令和6年度 進捗評価

Α

16年度 A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	人材の育成	現状	経営戦略を策定したことで、前年度を踏襲した事業を続けるだけ財政破綻の恐れがあることが分かった 職員数が減少し続け、業務の委託化が進む中、将来にわたって、ラ				
12	取組項目	研修、技術の継承	課題 	イフラインとしての下水道施設を維持するためには、下水道に関する専門的な知識や経験を有する職員の確保が重要				

最終 最終 前年度踏襲に縛られない新しいアイディアを出す人材の育成 目標 最新情報の収集できる人材の育成



	令和7年度以降	令和6年度
P Plan (計画)	①SOP、マニュアル の整備 ②人材育成SOPの整備 ③伝達研修の実施 ④SOPの修正・追加 ⑤SOPの評価	①SOP、マニュアルの 整備 ②人材育成SOPの整備 ③伝達研修の実施 ④SOPの修正・追加 ⑤SOPの評価

D co 令和6年度

(実施)

①評価:A ②評価:D ③評価:A ④評価:B

SOP及びマニュアルを整備するとともに、伝達研修を実施することで技術の継承を行った。



A

(改善)

取組を継続することで、技術の継承を続けていく。



令和6年度 進捗評価

В

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	事務の改善	現状課題	会議や協議資料の電子化でペーパーレス化が進み、これまでと違うデータ の管理方法が必要になってきている 扱うデータ量が年々増えているため、目的のデータに辿り着く時間が増え			
13	取組項目	データ管理		ている 担当者によってデータの整理方法が違う場合があるため、ルール化が必要 			

最終 事務の共有と効率化が期待 目標



	令和7年度以降	令和6年度
Plan (計画)	O	の統一化 ②データの整理 ③クリック数の削減



①評価: B ②評価: B ③評価: C ④評価: A

令和6年度 各所属においてデータ 保存ルールの統一及び、 統一したルールに基づ く運用を行った。





C

Check (評価)

令和6年度 進捗評価

С

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

A

引続き適切なデータの管理により、事務の共有と効率化を目指す。

No.	施策	秩序正しい財政運営の推進	現状課題	資金残高は、令和2年度決算で70億円以上あり、日々の取引や企業債 償還金の資金を安定して確保している 経営戦略期間中は、純利益(黒字)を維持する見込みだが、借金の返済
14	取組項目	資金残高		人口減少による使用料収入の減収などで令和12年度には3億円以下にまで減少が見込まれるため、極めて厳しい財政状況

最終 必要な資金残高の確保

目標 将来的には災害に備えた資金の確保(25億円)



D	令和7年度以降 ①経営戦略の損益堅	令和6年度 ①経営戦略の指益堅	D		①評価:A ②評価:C ③評価:C 令和6年度決算にお
Plan (計画)	守 ②効率的な施設更新	守 ②効率的な施設更新 ③事務の効率化	do (実施)	令和6年度	いて戦略値以上の資 金残高を確保できた。

今後も事務の効率化を図りつつ、利益額を増加 させることで資金残高の更なる確保を目指す。



進捗評価

Α

A:目標達成

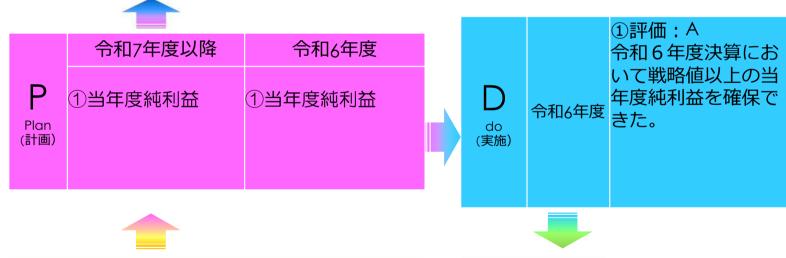
B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	施策	秩序正しい財政運営の推進	TD.15	令和2年度に策定した経営戦略では、経営状況は当面の間、厳しいながら も使用料改定をすることなく乗り越えられることが分かった ただし、最も経営状況が厳しい令和13年前後の資金状況を踏まえると、経
15	取組項目	当年度純利益	課題	営戦略で設定した当年度純利益は維持、改善し続けなければならない

最終 経営戦略上の収支計画を維持、改善することで安定経営に寄与する 目標



A

(改善)

今後も計画値以上の利益額を目指し、費用削減 や収益増加のための施策を実施する。

Check (評価) 令和6年度 進捗評価

____A

A:目標達成

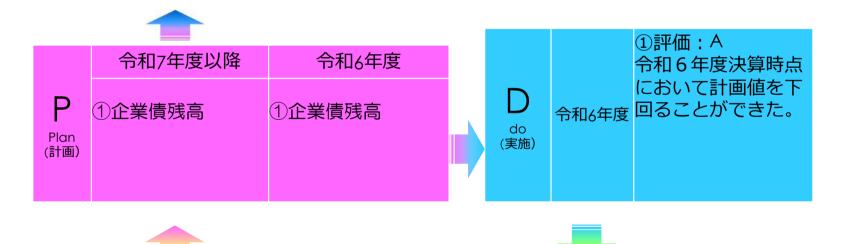
B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	秩序正しい財政運営の推進	7 0.45	本市の大部分は淀川・大和川よりも低いため、浸水被害が発生しやすく、雨水排水対策を重点施策としてきた そのため、市民一人当たりの借金残高は大きく膨れ上がっており、
16	取組項目	企業債残高	課題	安定経営や負債を将来に残さないために、企業債残高を減らすことが重要

最終 - 借金返済額を減少させることで安定経営に寄与する

目標 ・負債を将来の市民に負担させない



Aaction

(改善)

引き続き経営戦略値を達成する。

Check (評価)

A:目標達成

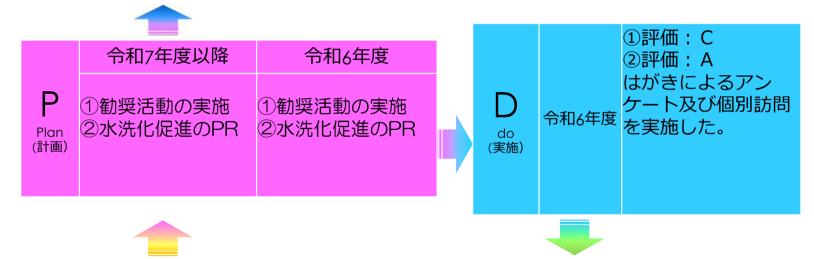
B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

17 取組項目 未水洗化家屋への勧奨 課題 ・必要な方に必要な情報を伝える仕組みを考える必要がある	No.	施策	事業運営に不可欠な財源確 保	現状	経済的負担等の事情により、勧奨効果が見込めないケースがある現在は戸別訪問を中心に行っているが、ほとんどが不在で啓発パンフレットを投函のみの場合が多い
	17	取組項目	未水洗化家屋への勧奨	課題	

最終 |・水洗便所により公衆衛生の向上

目標 │・使用料の収入向上



A action (改善) 現在は戸別訪問を中心に行っているが、未水洗化家屋の削減に向けて、HPやX (Twitter) 等に掲載しPR実施し、より効率的な手法を検討する。



令和6年度 進捗評価

В

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	事業運営に不可欠な財源確 保	現状	人口減少に伴い、使用料収入の確保が難しくなっている 滞納者に向けて専用のチラシを活用した催告を行っている 収納チャネルの拡大等を継続し、未収金を未然に防ぐ環境を構築し
18	取組項目	未収金削減への取組	課題	たい

未収金の削減、収納率の向上 目標



令和7年度以降 令和6年度 ①収納チャネルの拡 ①収納チャネルの拡 大 Plan (計画) ②滞納者数の削減 ②滞納者数の削減



①評価: B ②評価: A

口座振替、及びモバイル 決済の勧奨を実施。

令和6年度 催告書発送時に、滞納者 の目につくよう色、文言 等を工夫したチラシを同 封し、未収金の徴収率向 上に向けて取り組んだ。



action

(改善)

滞納者へ督促・催告を行い、加えて電話・訪問 催告を実施することで、徴収強化に取り組み、 早期回収に努める。



令和6年度 進捗評価

В



A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	事業運営に不可欠な財源確 保	現状	本市がこれまでに多くの雨水対策事業を行ってきたことから、下水 道事業の収入のうち、他会計繰入金は多額となっている 他会計繰入金は交付税や市税によって賄われているため、国の制度
19	取組項目	他会計繰入金の精査	= 日白	等によって金額の算定方法が変わる可能性があり注視する必要がある

雨水対策事業費に見合う繰入額を確保

・他会計繰入金に依存した経営から脱却



①評価:A 令和7年度以降 令和6年度 ②評価:A 他会計繰入金割合を減 少させた。 ①他会計繰入金割合 ①他会計繰入金割合 令和6年度 経費回収率も100%以上 の減少 の減少 do Plan となった。 (実施) ②汚水事業と雨水事 ②汚水事業と雨水事 (計画) 業の明確化 業の明確化



今度も汚水事業と雨水事業のそれぞれに対して 十分な財源の確保を目指す。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

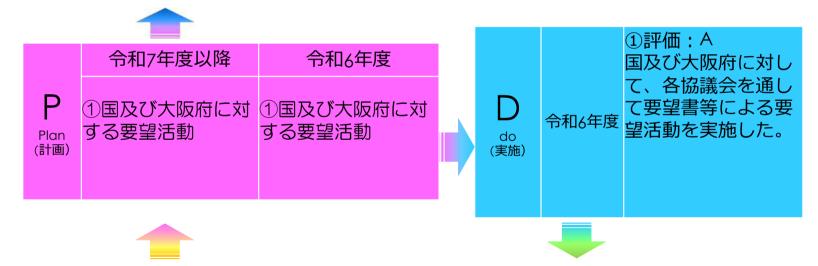
B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	施策	事業運営に不可欠な財源確 保	現状	(現状) 国に対して、治水対策にかかる財政支援を要望している 大阪府に対して、市内での対策事業の推進を要望している
20	取組項目	国や府に対する要望活動 (治水対策)	課題	(課題) 事業の必要性、効果をPRしていくことが必要

市内の浸水被害の軽減に向けた対策事業を進めるための財政支援の充実 目標



action

(改善)

今後も引き続き要国及び大阪府への要望活動を 実施する。

Check (評価)

令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	事業運営に不可欠な財源確 保	1日1十	①雨水事業に対する地方財政措置の改善 ②公害財特法に基づく交付税の特例措置の失効に伴う影響に対する 恒久的な代替策
21	取組項目	国に対する要望活動(地方 財政措置)	課題	

最終 安定経営にむけた財政支援の充実 目標



令和7年度以降 令和6年度 ①国に対する要望活 ①国に対する要望活 Plan (計画)



令和6年度

①評価:A 本市の主要施策を推 進するため、国及び 府に対する要望書を 提出した。



本市の主要施策を推進するため、国及び府に対 する要望書を引き続き提出する。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	1691 ===	効率的かつ計画的な維持修 繕計画の推進	 現状	長期的な視点で老朽化の状況を把握し、計画的かつ効率的な施設の維持管理と更新を行うため、定期的な整備が必要
22	取組項目	ポンプ設備の維持管理	課題	な部品については、整備計画の作成が必要

ポンプ場の計画的かつ効率的な維持管理を行う 目標



令和7年度以降 令和6年度 ①施設の長寿命化 ①施設の長寿命化 ②維持管理費の低減 ②維持管理費の低減 Plan (計画) ③契約業務の工夫 ③契約業務の工夫 ④計画的な維持管理 ④計画的な維持管理



令和6年度

①評価:A ②評価:D ③評価:C 4)評価:D

ストックマネジメント 計画に基づく改築を実 施した。



維持管理費の低減に向けての取組みについては、 今後も検討する。



令和6年度 進捗評価

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	施策	他都市との相互協力体制	ᅵᅜᆛᄼ	昭和24年度より事業着手し、整備を進めてきた下水道施設は老朽化が進行している
23	取組項目	下水道管の維持管理	課題	持続的な下水道機能を確保するため、ストックマネジメント計画に基づく効率的な施設の維持管理が必要

下水道施設の破損を起因とする道路陥没等の事前防止

• 下水道施設の長寿命化



	令和7年度以降	令和6年度
Plan (計画)	①重要路線の点検、 維持補修 ②一般路線の点検、 維持補修	①重要路線の点検、 維持補修 ②一般路線の点検、 維持補修



①評価:A ②評価:A

ストックマネジメン ト計画に基づいて、 令和6年度 一般路線の点検を実 施した。





ストックマネジメント計画の基本方針に従い、 下水道施設の点検業務を進める。



令和6年度 進捗評価 Α

A:目標達成 B:目標をある程度達成

C:目標を下回る



No.	施策	他都市との相互協力体制	7 H J L	大阪府内において、下水道事業を推進するため、日本下水道協会と 連携し、かつ、会員相互の広域的な連携を図り、諸般の調査研究そ の他必要な事業を行うとともに、会員相互の情報交換を図っている
24	取組項目	下水道協会の提言活動	課題	

下水道事業に必要な所要額を確保することができ、計画的な事業執行が可能 目標



令和7年度以降 令和6年度

Plan (計画)

①地元選出国会議員 ①地元選出国会議員 に対する提言活動

に対する提言活動



do

令和6年度

①評価:A 11月の下水道全国大 会に合わせて地元選 出国会議員に対する 提言活動を行った。





(改善)

引き続き、下水道事業に必要な所要額を確保し 計画的な事業執行に努める。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	他都市との相互協力体制	現状	(現状)人口減少による収入減、施設の老朽化に伴うコスト増、職員の減少など、事業を取り巻く環境は厳しさを増している (課題)さらなる事業運営の効率化が必要流域下水道により、ハー
25	取組項目	加 流域協議会等	課題	ド面での広域化は進んでいるので、ソフト面での連携が必要

事務の広域化・共同化による事務の効率化 目標



令和7年度以降 令和6年度 ①大阪府汚水処理事 ①大阪府汚水処理事 業広域化・共同化計 業広域化・共同化計 画算定 画算定 Plan (計画) ②事務の共同化にむ ②事務の共同化にむ けた情報交換・実施 けた情報交換・実施 検討 検討

do (実施) ①評価:A

②評価:A

事務の共同化に向け

て協議した。

令和6年度

action

(改善)

引き続き事務の共同化に向けた情報交換・実施 検討を行う。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	水質規制	TD. I.I.	事業場排水に起因する悪質下水の流入が度々発生する 大阪府東部流域下水道事務所より調査・指導の強化を求められている 職員数が減少しているため、技術の継承を踏まえた業務の直営は残しつつ、
26	取組項目	有害物質への対策		委託範囲の拡大を検討する必要がある

最終 ・下水道施設の更新・補修の経費を節減 目標 ・住工共生のなかで、生活の安心・安全



	令和7年度以降	令和6年度
P Plan (計画)	①有害物質発生の予 防保全 ②有害物質発生後の 迅速対応 ③業務の委託化拡大	防保全 ②有害物質発生後の 迅速対応



令和6年度

①評価: B ②評価: A ③評価: A

令和6年度において 立入指導を130件、 排水調査は27件を 実施した。



職員数が減少しており、技術の継承を踏まえた 業務の直営は残しつつ、委託範囲の拡大を検討 する。



令和6年度 進捗評価

В

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	施策	危機管理体制の充実		市の地域防災計画や業務継続計画と整合を図りながら、下水道事業の効率的な災害対応を実施するため、業務継続計画(BCP)を策定している一方、地震災害や豪雨災害の危険が高まっている中で、更なるBCPの改善
27		業務継続計画(BCP)の更 新	課題	が求められている

最終 危機対応能力の向上 目標



①評価:A 令和7年度以降 令和6年度 ②評価:A ③評価:A 令和6年度業務継続 ①災害時の職員配置 ①災害時の職員配置 令和6年度 計画 (BCP) を作成 計画 do Plan (実施) し、部内共有を実施 ②受援体制構築計画 ②受援体制構築計画 (計画) ③部内共有 ③部内共有 した。



A

今後も毎年度業務継続計画(BCP)を更新することで、危機管理体制の充実を継続する。



令和6年度 進捗評価

Α

A:目標達成

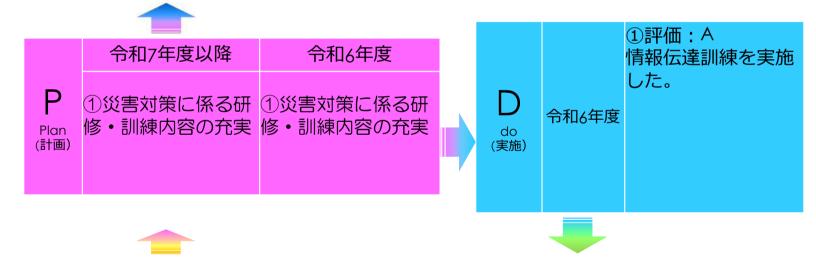
B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

No.	施策	危機管理体制の充実	現状	大阪府とBCPが実行性を伴うものとなるような研修・訓練を実施している
28	取組項目	災害対策研修・訓練の実施	課題	

最終 業務継続計画(BCP)が実行性を伴うものとなるような研修・訓練の実施目標



A action (改善) 引き続き災害対策に係る研修の実施を検討する。



A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	治水対策の推進		東大阪市を含む寝屋川流域は、その約3/4が降った雨が自然に河川に流れ込まない内水域のため、河川・下水・流域による総合治水対策に取り組んでいる早くから下水道の整備が進められた第二寝屋川以西の地域は排水能力が弱く、
29	取組項目	増補管の整備		排水能力を高めるための増補管を整備している計画約27kmのうち、約96% の進捗率(令和2年度末)
最終。西部地区の浸水被害の軽減				

目標



令和7年度以降

令和6年度

①浸水被害の解決の ①浸水被害の解決の 進行管理

進行管理

do (実施) ①評価:A

新岸田堂幹線新岸田堂 幹線 (残工事) を施工

した。

引き続き、分水人孔の設計を進めていく。



令和6年度 進捗評価

令和6年度

A:目標達成 B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

D:目標を大きく下回る

Α

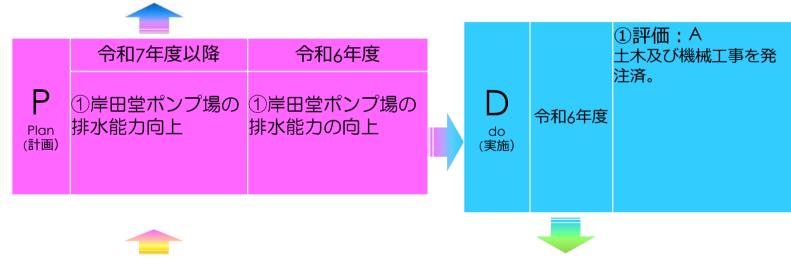
action (改善)

Plan

(計画)

No.	施策	治水対策の推進	現状課題	(現状) 岸田堂ポンプ場からの雨水の排水量を増やすためにポンプの増設が計画されている現状は計画能力以下のポンプが設置されているのみとなっている
30	取組項目	ポンプ施設の整備		(課題) 現状の限られた敷地内に新たにポンプを設置することになるため、技術面で高 度な検討が必要となる

最終 岸田堂ポンプ場からの雨水の排水量を増加させることで浸水被害を軽減させる 目標



A

(改善)

引き続き計画通りの工事を実施する。



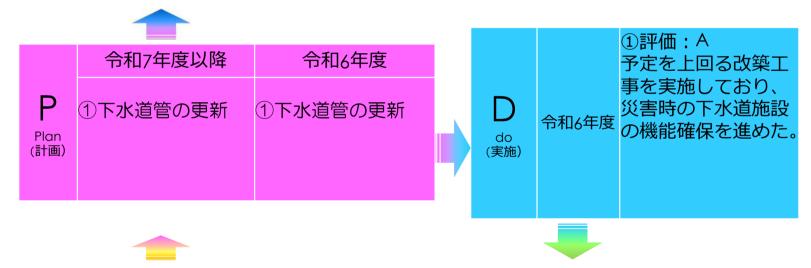
A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	下水道施設の再構築	現状課題	本市の下水道整備は、下水道普及率99.9%(処理人口)であるが、既設管渠約1,160kmのうち約170kmが整備から50年以上経過している(令和2年度末)老朽化した施設は、損壊による機能停止での衛生面・防災面のリスクや道路陥没等の二次被害のリスクを抱えており、地震等の災害に備えた改築更新や耐震化を効率的に費用を抑制しながら進める必要がある
31	取組項目	下水道管の更新		

最終 計画的な改築による、災害時の下水道施設の機能確保と、持続可能な事業運営 目標



action (改善)

災害に備えた改築更新を効率的に進める。

進捗評価 Check (評価)

A:目標達成 令和6年度

Α

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る

No.	施策	下水道施設の再構築	現状	(現状)高井田ポンプ場と岸田堂ポンプ場は、共に供用開始から50年以上経過しており、機械・電気設備を中心に老朽化が進んでいる (課題)ポンプ場は、下水道の根幹施設であり、機能停止によるリスクが大きい
32	取組項目	ポンプ設備の更新	課題	ため、状態監視と計画的な修繕・改築が必要

ポンプ場の計画的かつ効率的な維持管理と災害時の下水道施設の機能確保 目標



action

(改善)

今後も、計画通りの進捗に努める。

令和6年度 進捗評価 Check (評価)

Α

A:目標達成

B:目標をある程度達成

C:目標を下回る